

JICA 中国事務所ニュース 4月号

目次

【最近のトピックス】

- ◎ 南保昌孝長期専門家が遼寧省外国専門家栄誉賞を受賞！…………… 1
- ◎ 新 JICA 発足に伴う新しい試み ～四川大地震円借款防災研修～…………… 2
- ◎ 軟式野球ボールを寄付していただきました…………… 3

【ニュース】

- 循環型経済発展の促進プロジェクトが終了しました！…………… 4
- 中日 JDS プロジェクト留学生帰国報告会への参加 …………… 4
- ミャンマーのリハビリプロジェクト研修員が中国のリハビリセンターを訪問…………… 5
- 第7回理学療法科学学会国際学術大会へ参加して…………… 5

【人の動き・主要行事】…………… 6

【寄稿コーナー】…………… 6

【帰・赴任者紹介コーナー】…………… 8

最近のトピックス

◎ 南保昌孝長期専門家が遼寧省外国 専門家栄誉賞を受賞！



本溪市安全生産監督管理局趙福才局長から表彰を受けた南保昌孝専門家(左)

中国の労働安全の向上を目指し、北京を拠点とし、本溪(遼寧省)と寧波(浙江省)をモデルサイトとして実施している「中日安全生産科学技術能力強化計画プロジェクト」の南

保専門家が、「遼寧省外国専門家栄誉賞」を受賞されました。この賞は、遼寧省における技術協力で優れた功績を挙げた外国人専門家に授与されるものです。昨年7月には、取違専門家が「遼寧友誼賞」(同省の産業発展に寄与した外国人に授与される)を受賞されていますので、本プロジェクトでは、遼寧省による2人目の表彰となりました。

(環境1班 林宏之)

～遼寧省外国専門家栄誉賞を受賞して～

中日安全生産科学技術能力強化計画プロジェクトの安全生産担当の日本専門家の南保昌孝です。

この度遼寧省より遼寧省外国専門家栄誉賞を頂きました。大変光栄に思っております。この度の受賞は、JICA 中国事務所の皆様や、当プロジェクトの同僚、カウパートの中国国家安全生産管理総局の皆様や中国安全

生産科学研究所の皆様、更には、本溪市、本溪市安全生産監督管理局の皆様のご協力なしには頂けなかったものであり、その意味で、関係者の皆様を代表して頂いたものと理解しております。ありがとうございます。

さて、私どものプロジェクトは、2006年10月末から四つの柱で活動を実施しております。第1は危険物の安全管理、機械的危険性の管理、労働衛生管理に関する安全管理基準等の整備、第2はモデル地区における行政・企業レベルの安全生産管理能力の向上、第3は保護具、作業環境測定、危険物の性状試験能力の強化、第4はカウンターパート機関の研修能力の強化を目的としており、私は主に第2の柱であるモデル地区における活動を、同僚である本多信一郎さんとともに実施しております。

この活動では、如何に企業における自主的な安全衛生活動を定着させるかがカギであり、このため、日本の安全衛生の現場でよく実施されている協議会方式を紹介し、自主的な活動が定着できるような雰囲気作りをするとともに、事故事例分析勉強会、日本の事例紹介、安全衛生セミナーの実施、更には、中央労働災害防止協会が提唱し約40年にわたり実施・展開されているゼロ災害運動を紹介し定着すべく努力しているところであります。

当初は、私どももカウンターパートも戸惑うことも多くありましたが、最近ではこのような研修を実施したいなどといった企画案的なものも出てくるようになりました。何より、モデル企業の安全生産担当者の方の安全に関する考え方の進歩は目を見張るものがあり、心強く思っております。私どものプロジェクトもあと1年半となっており、この成果が実り多く、より多くの方にその成果を享受して頂けるよう頑張りたいと思います。

(長期専門家 南保昌孝)

◎ 新 JICA 発足に伴う新しい試み ～四川大地震円借款防災研修～



成都にて訪日研修生に事前説明を行う馮威所員

四川省では2005年より、有償資金協力案件「四川省長江上流地区生態環境総合整備事業」が実施されていますが、2008年5月12日に中国で発生し、9万人以上といわれる死者・行方不明者を出した四川大地震では、右プロジェクト対象地域である都江堰市、徳陽市、広元市などでも、大きな被害が生じました。2008年12月に行ったプロジェクト視察の際に、実施機関側から「現在急ピッチで行われている復旧・復興プロジェクトに、日本の経験・知見を取り入れたい。」との相談が寄せられました。



訪日研修ニーズ等をヒアリングしている張陽所員

この2008年12月から「円借款防災研修」という新プロジェクトがスタートしました。少しでも早く、且つ、効果的な研修を実施すべきとの考えから、ゼロベースで手続・やり方を考え、「Speed & Quality」を合言葉に訪日研修の担当である馮威所員(旧 JICA)、円借款植林事業の専門家である張陽所員(旧 JBIC)、JICA 兵庫センター職員等、皆で知恵を出し合い進めました。(途中何度か挫けそうになりましたが)関係者の怒涛の準備作業

もあり、3月8日～19日の12日間に亘り、四川省人民政府や重点被災地域である都江堰市政府の幹部職員17名を日本に招き、日本の震災復興・防災に関する知見や取組みを紹介するための研修が実施されました。

私が好きな言葉に「1人で見る夢は只の夢、皆で見る夢は現実となる夢」というのがあります。今回の研修準備は3ヶ月間という短い期間でしたが、日中双方の関係者、新JICAの同僚、皆が力を合わせて「夢」に向かって激走した3ヶ月間でした・・・次回は余裕を持って実施したいところです。

(環境2班 竹内和夫)

◎ 軟式野球ボールを寄付していただきました



寄付された軟式ボールにて、指導する清野隊員

この度、青年海外協力隊(野球)OBで、現在、全日本軟式野球連盟(以下全軟連)にお勤めの吉岡大輔さんのご提案により、全軟連より中国に軟式野球ボール70ダース(840球)を寄付していただきました。

現在、中国での野球は、北京・天津・上海・広州・四川・無錫のプロ野球チームがある地域を中心に小学生から大学生、留学生によって行われています。

しかし、野球への理解度が低い中国で大金を使って野球用具を買い揃えるということは難しく、ボールの確保さえもままなりません。そのため、現在は野球の盛んな日本や台湾などからの援助に頼っているのが実情です。

協力隊の野球隊員は用具の寄付などは出来ないものの、任地の人々に野球の素晴らしさを知ってもらい、野球を楽しんでもらう。ま

た、みんな一緒に野球をしませんか??と声を掛け広めることで、野球を理解し興味を持ってもらう。そんな、きっかけ作りも我々の活動の一つだと思います。

この3月に学生を連れて河北省の保定(20年度1次隊岩崎隊員配属先)へ遠征に行った時のことです。その時は、他の協力隊員と保定第4中学の選手と一緒に試合を行いました。保定の学生の中には野球を始めたばかりの学生もいて、試合が終わった後に「ベースを一周回ったら得点になるんだ!」とルールについて改めて学べた学生もいたようでした。また、その後、岩崎隊員が「あの試合の後から学生が一生懸命に練習をしている。」と話してくれたことがありました。この話を聞き、自チーム以外の選手との交流により選手の意識が変わり、彼らが学ぶきっかけを我々野球隊員が作ってあげることも大きな活動であり、野球の普及への架け橋になるのではないかと思います。

今回の軟式ボールの寄付と我々野球隊員の活動の双方が合わさり中国の野球普及に貢献できる、もしくはそのきっかけ作りが出来るのではないかなと思います。

今回の寄付により、野球を通して子供達の笑顔を見るきっかけを与えていただいた全軟連の方々に心より感謝申し上げます。そして、配布した学校の学生はそのボールで一生懸命に練習をして将来プロ野球選手を目指して頑張ってもらえたら私も幸せです。

本当にありがとうございました。

(青年海外協力隊 広西壮族自治区 桂林 旅游高等専科学校 野球 清野祐)

ニュース

■ 循環型経済発展の促進プロジェクトが 終了しました！



循環型経済発展の国内研修プロジェクトが終了しました

2006年から実施した標記現地国内研修プロジェクトは2009年2月24日～3月2日にかけて行われた「日中技術協力生態工業パーク研修コース」を持って終了しました。本プロジェクトは今回のコースを含め、計8回の研修コースが実施されました。コースごとにテーマが異なりますが合わせて400名余りの地方行政官が研修を受けたことになります。今回研修コースの初日は、JICAと日中友好環境保全センターが協力する、循環型経済推進プロジェクトの開幕式と合わせて行い、今後、循環経済分野の協力はJICAの技術協力プロジェクト「循環型経済推進」の中で引き継がれていきます。

言うまでもなく、循環経済の実現は、中国政府が非常に力を入れている課題であり、「中国循環型経済促進法」も今年の1月1日から施行されております。この日中協力による研修プロジェクトで紹介された循環型経済の理念が、研修を受けた行政官のご活躍により中国で広く普及されることが期待されます。
(環境2班 邢軍)

■ 中日 JDS プロジェクト留学生帰国報告会 への参加



日中友好の架橋として期待される中国若手行政官

3月31日、20名近くのJDSプロジェクト「人材育成支援無償」で留学生生活を終えた中国若手行政官による帰国報告会が開催されました。報告者は早稲田大学、立命館大学などで公共政策、国際関係などの分野を専攻した行政官たちです。

留学生たちは報告会で日本留学生生活の研究発表を同時に行い、日本生活の経験談も披露しました。彼らの研究テーマはエコツーリズム、知的所有権、中国の財政政策など広い分野に涉り、いずれも「現代中国」に高い関心を示しています。また、留学生たちは「この一年間半か二年間の暮らしの中で、自分の研究課題だけではなく、自らの目で日本を見て、日本人と接触し、日本社会への理解も深めました。」と述べました。

JDSは2002年から実施し始めたもので、2009年3月まで311人を派遣し、そのうち、199人がすでに帰国しました。これらの帰国研修員の皆様はきっと今後中日関係に積極的な役割を果たし、各自の職場で活躍していくと信じています。

(相互理解/人材育成班 周南)

■ ミャンマーのリハビリプロジェクト研修員が 中国のリハビリセンターを訪問



中国、ミャンマーのカウンターパート同士が
お互いの経験を紹介しました

3月2日から5日にかけて、ミャンマー国「リハビリテーション強化プロジェクト」の日本での研修に先立ち、ミャンマーから保健省、マンダレー総合病院などの研修員3名と、同プロジェクトの奈良専門家(チーフアドバイザー)が中国を訪問し、北京の中国リハビリテーション研究センターでの視察・意見交換を実施しました。短い訪問でしたが、中国、ミャンマーでJICAの技術協力プロジェクトを実施しているカウンターパート同士が、それぞれの状況や経験の紹介・共有などを行いました。今回の訪問により、中国での経験がミャンマーの活動に活かされていくことが期待されます。(保健医療/社会保障班 坂元芳匡)

■ 第7回理学療法科学学会国際学術大会 へ参加

「中国で「リハビリ」は「生活」と切り離されて考えられているのでは?」、この考えは現在中国で活動中の7名のリハビリ隊員が共通して持っているものでした。そのようなこともあり、3月28日に大連で開催された『第7回理学療法科学学会国際学術大会』での発表は、この疑問を外へ向けて発信する良い機会でした。

当初から、『動作介助(立つ・座る・歩くなどの被介助者の動作を助けること)』の理由やケースを調査することで「関節を動かす以外にもリハビリの介入方法はたくさんあるので

は?』ということを訴えたかったのですが、今回参加した7名の配属先が中国全土にわたり、インターネットを使用しての発表準備ということ余儀なくされたため、準備が思うように進まないこともありましたが、しかし発表の6週間前に北京のJICA事務所で事前発表を行った時、出席者から多くのご意見を頂いて、そこから一気にカタチになってきた感じがしました。



患者の笑顔のため、情熱を持って活動している隊員達
とリハビリプロジェクトの専門家の方々と

大連での開催となった今年の学会。地方都市ということで、去年より参加者が少ない...?本当はもっと多くの方に聴いていただきたかったのですが...。でも、発表後に質問に来てくださった地元の方がおり、私たちの発表に関心を持ってくださったことを大変嬉しく思いました。

よい治療は「気づき」から。これからも患者さんの笑顔のために、何ができるかを考えていこうと思います!

(青年海外協力隊 山東省威海市立病院
理学療法士 桂理江子)

人の動き ・ 主要行事

(1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)

- ・耐震建築人材育成プロジェクト詳細設計
評価調査(4/5-23)
- ・草原における環境保全型節水灌漑モデル
事業中間レビュー(4/20-29)

河北省保定市第四中学

20年度1次隊

派遣期間 2008/6/23~2009/4/10

- 榎本 勇司 小学校教諭
内蒙古アラシャン左旗第二実験小学

(2) 長期専門家・ボランティアの動き

<長期専門家>

ア. 赴任

- ・高橋謙造 (2009.4.20~2011.4.19)
ワクチン予防可能感染症のサーベイ
ランス及びコントロールプロジェクト

イ. 帰国

- ・藤原 利恵 (2006.6.29~2009.3.31)
中西部地域リプロダクティブヘルス・家庭
保健サービス提供能力強化プロジェクト

<ボランティア>

ア. 赴任:

なし

イ. 帰国:

- 20年度1次隊
派遣期間 2008/6/23~2009/4/7
■ 岩崎 光亮 野球

(3) 事務所員等の動き

<日本人所員>

ア. 赴任

- ・木下 真人 企画調査員
(2009.3.26~2010.3.26)

イ. 帰国

なし

<ナショナルスタッフ>

ア. 採用

なし

イ. 退職

なし

(4) 4月の主要行事

- ・在外事務所長会議

寄稿 コーナー

(1) 河北省承徳の植林ツアー

~あの涙のわけ 初活動。緑化ツアーin豊寧県~

中国に来てから早くも半年。

これまでにした仕事といえば…

あれ、何だろう？おかしいな。僕は毎日こ
こで何をしているのだろう…。

そんな私ですが、ようやく実行出来た初活
動。週末緑化ツアーin豊寧県！！

北京から180キロしか離れていないここ豊
寧県で進む沙漠地と沙漠緑化プロジェクトの
成果見学、それから実際に緑化活動を行うと

いうプランで4月4日、5日の休みを利用して
計10名の方が参加してくれました。参加者の
皆さん本当にどうもありがとうございます。

天気は晴れ。抜けるような青！心配してい
た寒さも数日前から暖かくなり始めていて、
最高のコンディション。

今回の目標は油松 300本。見事に植えき
りました！途中から地元の方の農民の方も一緒
に手伝ってくれて、ペアで植樹活動を行う皆
さんの笑顔がまぶしかったです。

当日は全て順調に進み、いい雰囲気のまま

ま全行程を終了。そして最後の昼食。手伝ってくれた林業局員に感謝の意を込めて白酒で乾杯していた時の事。ありがとう。と伝える際に涙があふれてきて、皆で食事中であるにも関わらず号泣してしまいました。

長くなってしまふので細かくは書きませんが、ここまで色々な事がありました。人が集まらず、参加費を安くする事が出来ず、参加者募集締め切り2日前にスタッフに「やっぱ出来ない」と言われ、意思の疎通も上手くいかず、私自身がめげそうになり、一時は廃案にまでなりかけたものの意地とプライドで実行まで持っていきました。



植林ツアーを企画した鈴木隊員(中央)

今回の緑化ツアーを企画実行するにあたって好意で全面的に手伝ってくれた局員が「お前の中国語は中国人に似てきたな!」「リンムーは仕事出来るな!」とやけに褒めてくれて、素直に嬉しかった。

一緒に手伝ってくれる彼らを見て、好きだなと思った。この人たちの事を皆に自慢したいと感じた。

一向になじめない任地、交流出来ない同僚、要請内容に対する疑問…。何のためにここにいるのか分らなくて、自分を見失っていた協力隊生活半年目。

毎日自分を責めていた。自分はここで何しているんだろう。

でも分かった。

何もしていなくても、ただここにいるだけの毎日でも確実にこの人たちとのつながりは深くなっていて好きになれないと思っていた

豊寧県の事も豊寧の人たちの事もいつの間にか、好きになれてきているのだ。

そう気付いたら涙が止まらなくなってしまったのでした。この半年は無駄なんかじゃなかった。この事を知れた事が今回の企画での最大の収穫です。

長い、長い冬を越え、ようやく私の任地、河北省承德市豊寧県にも暖かな風が吹き始めてきました。まだまだここでの活動は問題山積みで、気が遠くなりますが、どんな形にせよ、これから自分がどう身をふるにせよ、中国であと1年半やり遂げよう。そう気持ちを入れ替えられた緑化ツアーでした。

諦めたら試合終了。安西先生の声が聞こえてくるようです。

また、夏に開催予定なので皆様奮ってご参加ください!

(青年海外協力隊 河北省承德市豊寧滿族自治県林業局 環境教育 鈴木純)

(2) ある国際ボランティアの中国への思い



カウンタートに囲まれた佐倉隊員(中央)

日本東京から近距離の埼玉県で生まれた佐倉美穂さんは、大学卒業してから、地元の医療機関に入り、10年間近く看護婦として勤めていました。2006年に、大変難しい試験を経て、佐倉さんはついにJICAの青年海外協力隊の隊員になり、7月に中国湖北省孝感県の病院に看護婦として勤務することになりました。

2008年5月、2年間の任期が切れる直前

に、佐倉さんは江西省で、国家人口計画生育委員会と JICA が実施していた「中西部地域リプロダクティブヘルス・家庭保健サービス提供能力強化プロジェクト」の対象地域を訪問する機会があり、吉安県で行われていた活動に大変感動を受けて、中国に残ってボランティア活動を続けたいと決心したそうです。2008年11月6日、佐倉さんは吉安県リプロダクティブヘルス・家庭保健サービスセンターで、新たなボランティア活動をするために配属されました。

吉安県での活動期間中、佐倉さんは JICA がボランティアの活動方針としてまとめた「三同主義」(共に暮らし、共に働き、共に考える)に沿うことを活動原則として、同僚たちと一緒に遠い田舎に赴いて、農村地域の住民に対してリプロダクティブヘルス・家庭保健サービスの啓蒙活動を行っていました。相談や検査にやってきた住民はほぼ中年以上の方であったため、佐倉さんはわざわざ手製の分かりやすい言葉や写真を入れた資料を作り、効果的な教育活動に取り組んでおり、とても参考になりました。「日本人でも、中国人でも、アメリカ人でも、生命の価値は同じです。もし自分の特長を生かして、困っている人を助けることができれば、大変光栄です。」「私が中

国で活動していた時、多くの人から助けていただきました。吉安県の人達は友好的かつとても親切で、春節の際、私を田舎の実家に遊びに連れて行ってくれました。」と佐倉さんは言ってくれました。

私の同僚の周小玲さんは、佐倉さんと一緒に仕事をしたのはたった1ヶ月ぐらいでしたが、佐倉さんの仕事に対するまじめさとサービス精神はとても深い印象を残したそうです。

佐倉さんは「日本にいた時は、新聞も、テレビも、中国に対する報道内容は偏っています。」と語ってくれたことがありました。今度帰国してまずやりたいことは、学校に行き自分の目で見た実際の真の中国を紹介することだそうです。そして、日中両国の文化交流と日中友好が深まるよう努力したいとのこと。また、チャンスがあれば、中国に戻ってまたボランティアの仕事に携わりたいと最後に語ってくれました。

(吉安県人口計画生育委員会李龍祥／吉安県新聞社王修明)

帰・赴任者紹介コーナー

(1) 長期専門家 藤原利恵



2006年の4月から始まった「中国中西部地域リプロダクティブヘルス・家庭保健サー

ビス提供能力強化プロジェクト」は今年3月31日をもって終了しました。

プロジェクト立ち上げでは、JICA 中国事務所や調整員の先輩方にいろいろご指導を頂きながら、なんとかプロジェクトをスタートさせることができました。

しかし、関係者が非常に多く実施体制も非常に複雑であった本プロジェクトの運営は困難の連続でした。途中「難題」とぶつかり、悩むことも多々ありました。そんなときは、とにかく「誠意」をもって仕事をするしかないと自分に言い聞かせながら、業務を進めてきました。

途中、チーフアドバイザーが帰国し、業務調整員一人でプロジェクトを運営していかねばならなくなり、途方に暮れていたとき、多くの方から励ましの言葉を頂きました。

紆余曲折を経ながらも何とかプロジェクトを終了させることができ、今は深い安堵感に包まれています。

これもいつも私を助けてくださった、中国側関係者の皆様、JICA 中国事務所の皆様、専門家の皆様のお陰だと感謝しております。どうもありがとうございました。

(2) 企画調査員 木下真人



はじめまして！3月26日に「環境管理」分野の企画調査員として赴任しました木下真人です。今回がはじめての中国勤務となります。これまで長期での海外経験はトリニダッド・トバゴ、オランダ、タイと4カ国目になります。中国でも「チャレンジ」をモットーに、仕事をしていきたいと思っています。これまでの専門分野は行政や高齢化が中心だったため、環境という分野で、どれだけ自分らしさを出せるかわかりませんが、皆さんの指導を請いながら、少しでもいい仕事ができるよう努力していきたいと思っています。

これまで全く中国にかかわる機会はなく、赴任前は不安に思っておりましたが、事務所には心強い諸先輩方、信頼できるスタッフがたくさんおり、現在は楽しみでいっぱいです。4月中旬には家族も来ますので、色々生活面でも教えていただければうれしいです。

また中国語を早く覚え、充実した中国生活をおくれればなと思っています。何事にも前

向きに取り組んでいきたいと思っています。どうかよろしくお願いします。

(3) 新人OJT 土居健市



数々の課題が未だ山積する中国ですが、私は半年間、家族や友人をはじめ、日本国内からの根強い「なぜ経済発展の著しい中国にODAを行うのか？」という問いに常に直面してきました。こうした厳しい視線に悩みましたが、その答えの1つとして、日中の相互理解の促進の重要性を改めて認識しました。四川大地震復興プロジェクトのお手伝いをさせていただいたこと、相互理解班の業務で帰国研修員や中国のNGOの方々とお会いさせていただくことで、JICA事業の日中友好への貢献を実感することができました。

在外OJTでは、本当に多くの方々のお世話になりました。先輩職員や上司の皆様から、日常の業務に取り組む背中や、ときには怒られながら、小手先の業務テクニックに留まらない「仕事」に必要なマインドや、業務に妥協しない姿勢等、様々なことを学びました。また、日本人の皆様はもちろん、中国人スタッフをはじめ、多くの中国人の方々に支えられた半年間でした。本当にありがとうございました。今後とも中国への情熱を絶やすことなく、日中相互理解の促進に貢献できるJICAマンとして頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

(4) 新人OJT 谷口剛



4月13日に帰任致しました谷口剛と申します。半年間、中国で業務を行うにあたり、大変多くの方にお世話になりました。どうもありがとうございました。

中国事務所では大きく分けて2つの財産を築くことができました。

1つは実務を通じた専門知識の習得です。特に円借款案件 CDM 事業化を進める上で、再生可能エネルギーや CDM の理論と実際に学ぶことができ、大変勉強になりました。再生可能エネルギーの普及は中国のみならず

全世界的課題ですので、投資メカニズムとしての CDM にも引き続き注目しながら、今後更なる普及に挑戦していきたいと思えます。

もう1つは人脈です。事務所内は当然ですが、大使館をはじめ、専門家、企業、中国側実施機関、他ドナー等、大変多くの方と面識を持つことができ、赴任前と比べ世界がずいぶん広がりました。

帰国後はアフリカ部南部アフリカ第二課に配属となりますが、この半年間の経験をいかし、精一杯頑張りたいと思えますので、引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

=====
* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静 (shenxiaojing.cn@jica.go.jp) へてにお願いいたします。
=====

* その他お知らせ

JICA のホームページ： チマイナ ライブラリー (和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

チマイナ トピックス (和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>